

安曇野の自然を愛した日本画家

井口 香山 (いぐち こうざん)

長野県南安曇郡豊科村下鳥羽出身

〈井口香山が活躍した時代〉

1877 (明治27年) ~ 1951 (昭和26年) 享年 74歳



略歴

明治					大正			昭和				
10	26	27	32	36	5	6	15	6	12	25	26	
長野県南安曇郡豊科村下鳥羽に生まれる。	藤森桂谷から南画の手ほどきを受け始める。	画家村田香谷の弟子となる。後「香」の一字を貰い「香山」と号す。	松本、安曇野で教職につく。	有明山神社神楽殿格天井画に「茄子」を描く。	教職を去る。	日本アルプス大絵巻を奉獻する。	千鹿頭池からの日本アルプスを制作する。	燕槍穂高岳縦走絵巻三卷三八景完成奉獻する。	奉獻する。 啓絵巻完成 翌一三年	日本アルプス絵巻 白馬絵巻三卷 軽井沢行	槍ヶ岳穂高岳屏風を描く。	七四歳で没す。

安曇野市で見ることのできる香山の作品



槍ヶ岳穂高岳屏風 (郷土博物館)

雷鳥やイタチなどの小動物が。描かれています。

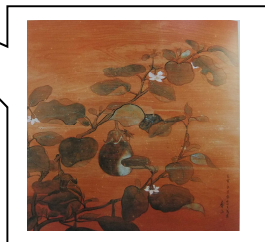


有明山神社神楽殿格天井画「茄子」

この中の一枚です。

参考 文献

「画家 井口香山 山と漢詩と画友と」 上條須美子
「豊科町誌」 「藤森桂谷と井口香山」 (郷土博物館)



功績

生来絵を好み、藤森桂谷について絵に漢詩をそえたり想像の世界を描いたりする南宋画法を学んだ。また、京都から来遊した村田香谷に師事して香山と号する。画風は、藤森桂谷の影響を受け南画家であったが、山水を描く写生的な要素を好み、南画に取り入れた。

「山の香山」「山の画家」ともいわれ多くの山の絵を残した。

73歳にして単身槍ヶ岳登山、写生をするほど故郷の山を愛した。香山は画室を「常念山房・常念画房」と称した。

明治34 (1901) 年、小学校教育令の改正により図画専任教員に選ばれ、神林・梓・豊科・和田の各小学校で十数年教鞭をとる。

井口香山と安曇野

槍ヶ岳・穂高岳屏風には、高山植物ではなく、身のまわりの植物を描いていることから、自分の生まれた安曇野の自然が好きだったと考えられる。(注：南宋画は、唐に始まり明の時代確立された。南画は、南宋画に由来する江戸時代中期以降に確立された日本的要素が加わった画風。)